

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 1月8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2170400697
法人名	メディカル・ケア・サービス東海(株)
事業所名	愛の家グループホーム岐阜羽島
所在地 (電話番号)	岐阜県羽島市足近町6-66 (電話) 058-394-3221
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年12月25日

## 【情報提供票より】(19年12月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	13 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 9.92 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	階 部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	(有) 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000円)	有りの場合 償却の有無	(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 800 円			

### (4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	8 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	64 歳	最高	91 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	松波総合病院 羽島歯科医師会
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

主要道路より一本中に入った閑静で田園風景が広がる場所にある2階建てのグループホームであり、清潔感のある洋風の建物である。地域の方との交流を大切にしており、同地区のお寺の法話も企画して利用者と家族の参加により一緒に楽しめるようにと様々なイベントが計画されている。その他にも職員の特技を活かし、利用者と共に楽しんでいる。職員はお年寄りが大好きと言う方たちで本人の尊厳やプライバシーを大切にする支援がされている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善点は6点あったが、毎月職員会議が行われ、運営に対する意見やケアプランについて検討が行われている。職員の全てが介護計画の内容を理解し、意見の反映がなされた。介護教室への取り組みと緊急時の手当てについては申し込み中で、更なる改善に向けて継続中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の評価は、全職員の意見を聞いてありのままに行った。その後サービスの視点に添って利用者の特徴を考えつつ話し合いをし、積極的に取り組んだ。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では利用者の状況やグループホームの情報提供を行い、サービスの質の向上に努めている。会議の内容は記録に残し、職員会議等でも検討し活かされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情相談窓口、意見箱も設置されている。民生委員、マッサージ師も外部の相談員の役割をしてくれる。ほとんどの家族が面会に来られるので、希望や意見を聞き運営に反映されるよう努力している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の日常生活における方針は、普通の一人の人間として暮らせるよう、希望や能力に合わせて支援されている。自治会に加入し地域の清掃に参加したり、ホーム行事は近隣の人達に参加を呼びかけ、散歩時や社寺のお参り等の折に地元との交流を図っている。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念として、認知症であっても、一人ひとりが地域の中で尊厳を大切に生活を送れる支援を掲げている。事業所独自のものは無い。	○	事業所独自の地域密着型サービスもふまえた理念を作り上げられるよう希望したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員に理念に対する考えをマニュアル化し、日常サービスの中で指導し実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は自治会に加入。地域清掃に参加したり、ホーム行事では近隣の人々に参加を呼びかけ、地元との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各ユニットごとに評価し、具体的な改善目標を掲げ、評価に対する理解を深め改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は外部の委員を含め、定期的に利用者の情報提供を行い、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは会議以外でも常に連絡や相談、話し合いが出来る。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回健康管理や金銭の報告をしている。ほとんどの家族が面会に来られるので、その時に日常の暮らしぶりを報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口はホーム長である。また意見箱もあり、家族等の意見を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者やホーム長は、職員の離職は信頼関係の出来ている利用者にとってダメージが大きいことと認識し、やむを得ない異動等については事前に利用者や家族に丁寧に説明している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内や法人の研修を受ける機会が多く、知識や技術の習得が出来るようになっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、意見の交換や勉強会がなされサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望があれば入居前に見学に来ていただき、他の利用者に紹介するなどしてホームや利用者と徐々になじめるよう配慮している。持ち物については、危険でないもの以外は本人、家族の意見を聞き、馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活暦や生い立ち等を考慮しつつ、普通の暮らしの中で利用者と職員が支えあう関係作りに重点を置いている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の立案や見直し時は、利用者や家族の意見を聞いて記録し、検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者が出来ること、興味のあること等を把握して、一人ひとりにあった計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1回の見直しをおこなっている。月1回のケアカンファレンスにおいて変化が生じたとき担当職員を中心に全職員で話し合い、現状に即した計画の作成に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望者に接骨院の訪問診療がある。又近隣の方が訪問し、ギターを弾いてもらえたり、イベントにも家族の方が参加している。利用者一人ひとりの買い物も支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか利用者の希望されるかかりつけ医での受診を支援している。基本的には家族が受診対応となっているが緊急の場合は職員が対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在重度化した利用者に対し かかりつけ医・本人・家族・職員で話し合い、全職員で方針を共有している。	○	今後ターミナルケアについて勉強会等を予定されており、さらなる全職員の研修等をおこない、検討されることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事・排泄等において本人の尊厳やプライバシーに関する言動に考慮されているが、時には口調が強くなるときも見受けられる。家族等の訪問者記名は一枚づつになっており、個人情報の配慮がなされている。	○	ケアカンファレンスにおいて接遇に対する教育を実施され、さらなる質の向上を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、買い物や散歩等においては一人ひとりのペースを重視した支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房担当がおり、職員は利用者と一緒に食事をしたり介助してコミュニケーションを取っている。片づけは利用者も手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全員が毎日入浴できるよう、時間帯も希望を聞いて支援している。入浴拒否の人には同性のスタッフが対応するなど工夫がされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活習慣や利用者の特技を活かした園芸・手芸・折り紙など色々な楽しみごとを引き出す支援がなされ、作品は所々に展示されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日、体調を見ながら出来る限り散歩に出かけている。敷地内にベンチがありお話をされたり、近くの神社へ出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階入り口は危険性があり施錠されているが、1階の玄関は開放されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアル作成され、年2回の消防訓練をおこなっている。家族・自治会にも参加・協力を呼びかけている。非常食料・備品も準備されている。救急救命の研修を予定している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮、献立が立てられ栄養素・カロリー計算もされている。摂取量や水分摂取の記録もされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は利用者がくつろげ、五感が感じられるスペースであり、個々に趣味などができたり利用者の団らん場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や物品を持ち込み、居心地のよい部屋となっている。寛げるスペースもあり、家族も訪問しやすいよう配慮されている。		